

家族の絆 エッセイから

「おばあちゃんのお守り」

北区立西ヶ原小学校六年

松浦ねる芭

私は以前学校に行くのがいやで、みんなを困らせていました。そんな時、私を変えてくれたのは、おばあちゃんでした。

夏休みに、私はおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんが大好きな私は、何をしてもあつという間に過ぎてしまいきます。とうとう別れの日が来てしまいました。別れをおしむ私にお守りしてくれたのは、おばあちゃんでした。「手作り？」と聞くと、「そうだよ、学校にいけないようになったら開けてみてね」といつものやさしい声で言ってくれたので、私はがんばろうと思いました。それから私は、学校に行けるようになりました。おばあちゃんがくれたお守りを開けてみると、中に手紙が入っていました。「ねるはちゃん、がんばったね。おめでとう。」気がつくと、私の目に涙がたまっていました。「私は、おばあちゃんのおかげでがんばれたよ。ありがとう。」

(平成三十年度第三回「家族のきずな」エッセイ募集作品集 東京北モラロジー事務所)

学校のちよつといい話12

努力なくして結果はでない

私が受け持っている小学校四年生のA君は、二年生の時に転校してきた。運動が得意で足は速く、ドッジボールでは六年生にボールをどんどん当ててしまふ。係の仕事や手伝いなどもすすんで行うことができ、とても頼りになる存在だった。しかし一つだけ欠点があった。それは、勉強になると「どうせ僕はできないから。バカだから」と、運動や生活の中での表情とは、真逆になる。

四年生になり、再び担任をすることができた。「陸上大会に出たい」と言うように、彼は少しずつ変わり始めてきた。もちろん、タイムだけで見たら、出られるタイムである。しかし、部活動を始めたばかりの四年生であることや、来年度のことなどを考えていくと、今年は難しい。その旨を伝えると、とてもがっかりし、練習も適当に行っ

ていた。変わり始めていた彼なのに、私はそんな姿に驚き、「努力なくして、結果はでない」と彼に話をした。その日から彼の練習への態度がガラッと変わった。そんな時、学校行事の引率で担任の不在が続いた。「みんなで力を合わせて頑張る」と声を掛け合い、自習も給食も掃除も当たり前のことを当たり前前に頑張った。彼はもくもくと学級のために行動したそうである。

ようやく、私と一緒に学習ができるようになったその日、これまで「先生、分からないから教えて」と何度も言っていたのに、突然無口になった。下を向き、口を真一文字に結んでいた。その頬には、涙が伝っていた。私は驚いたが、とても嬉しかった。それと同時に数人の子も気づき、こっそり伝えに来てくれたが、あつという間に彼をサポートしていた。その双方の姿に、胸が熱くなった。その時、「できるようになりたい！」という気持ち芽生えた彼の姿が、と

ても眩しかった。

今までは、親と一緒に宿題を行っていたが、今は一人で行うようになり、分らないと友達に聞くようになったという。それは、教室でも同じである。どんな友達にも聞くようになった。そんな彼は、学級委員として学級をまとめながら、持久走大会では見事一位をした。

(I)

◆編集後記◆

◎昨年末に、皇居勤勞奉仕の機会をいただきました。四日間、草取りや掃除をしました。一日目は皇太子殿下、二日目は、天皇陛下と皇后陛下から「ご会釈」を賜りました。質問やねぎらいの言葉をいただき貴重な体験となりました。

◎今年の新年一般参賀は、平成最多の十五万人以上が参加しました。お出ましは、二回延長して七回実施されました。乾通りの公開、天皇誕生日の一般参賀など天皇が国民とともにあることを実感します。五月には皇太子殿下が天皇に即位されます。長くお務めに精励されてきた上皇への感謝の念と、第一二六代の新しい天皇への敬愛と期待の念を持ちながら、国民こそつて御代(みよ)替わりを寿(ことほ)ぎたい。